

たこ焼きに混入したタチウオの歯

マリンサイエンスゾーン担当室長兼副課長 上田 幸男

Key word; タチウオ, 異物, 犬歯, 返し, タコ

水産研究課では県内の事業者から水産物と想定される異物や水産物に混じった異物の鑑定依頼がある。研究員の有する知見や技術で鑑定できない場合は大学や水産総合研究センターなどの協力を得て鑑定している。鑑定できない場合もあるが、研究員のコメントとマイクロSCOPEによる画像を添えて異物を返却している。難しい鑑定の過程を通して私達も鑑定の知識と技術の向上を図っている。

平成 28 年 6 月 6 日に鳴門市でタコとイカを加工販売する水産会社から「私達の会社が出荷した中国産マダコに混入していたかどうかは不明だが、たこ焼きに混入した骨状の異物を鑑定してほしい。」と依頼があった。さっそくこの異物をマイクロSCOPEで拡大したところ、見覚えがある尖った歯のような物質を観察することができた(写真 1)。



写真 1 鑑定依頼があったたこ焼きに混入した尖った歯のような物質

結論から言うところこの物質にはエナメル状の光沢があり、先端に釣り針で言う魚の口に刺さった針が抜けないようにする「返し」がついているので「タチウオの犬歯」であることが容易にわかった。過去に撮影したタチウオの犬歯(写真 2)と比較したところそっくりであった。私はハモやタチウオなどの漁業と生態について 30 年程研究を続けてきたので、これらの鋭い歯には生態学的な見地からの興味があり、歯の先端がどのようになっているのか、歯の強度や材質に少しは以前から関心を持っていた。

徳島県水産研究課は世界で初めてタチウオが下層から中層に向けて斜めに高速で泳ぎながら、餌となる魚介類を襲うことを確認している。このため、タチウオは「一撃必殺」の鋭い犬歯で餌を捕らえ、しかも餌を逃がさないように犬歯は先端に「返し」がついた構造になっている。底びき網や定置網の網地にタチウオがよく引っ掛かるが、この「返し」が付い

た鋭い犬歯が網地に刺さって抜けなためと推定している。

一般にはあまり知られていないが、徳島県は全国第9位(平成25年)のタチウオ生産県であり、漁獲物の一部は著しくタチウオへの嗜好が強い韓国へも輸出している。和歌山県や兵庫県はタチウオの漁獲量も多く、紀伊水道はタチウオの濃密な棲息場になっている。

世界のタチウオの水揚げは中国が107~119万トン、韓国が3~8万トン、日本が2~5千トンであり(2000~2014年FAO統計資料)、中国が圧倒的なシェアを誇り、多くはトロールで水揚げされている。このため、トロールで水揚げされたタチウオと同じような水深帯に棲息するタコにタチウオの折れた犬歯が付着していても不思議ではない。

今後も、徳島県を含む国内外でタチウオの犬歯が異物として混入する可能性があると思うので記録させていただいた。



写真2 徳島産タチウオの頭部と取り出されたタチウオの左上顎と下顎。上顎と下顎に返しが付いた犬歯が付いている。